

ビッグデータの「見える化」 と静岡県健康づくり



世界遺産
蘆山反射炉



世界農業遺産
茶草場農法



ワールドカップ会場
エコスタジアム

世界文化遺産
富士山



ユネスコ登録
南アルプス



世界ジオパーク
伊豆半島



唐奨・ノーベル賞
本庶 佑



ノーベル賞
天野 浩

2020年3月

静岡県健康福祉部
土屋 厚子

静岡県健康寿命

男性

(歳)

順位	平成22、25、28年平均	
1	山梨	72.31
2	静岡	72.15
2	愛知	72.15

女性

(歳)

順位	平成22、25、28年平均	
1	山梨	75.49
2	静岡	75.43
3	愛知	74.48

健康長寿の要因

緑茶年間支出金額 **9,491円**

全国
1位
(静岡市)

日本一の産地・消費地！

県内で生産される
食品品目 **439品目**

全国
トップ
クラス

65歳以上の
働いている方の割合 **24.5%**

全国
4位

4分の1の方が元気に働いている！

メタボ該当者割合 **13.0%**

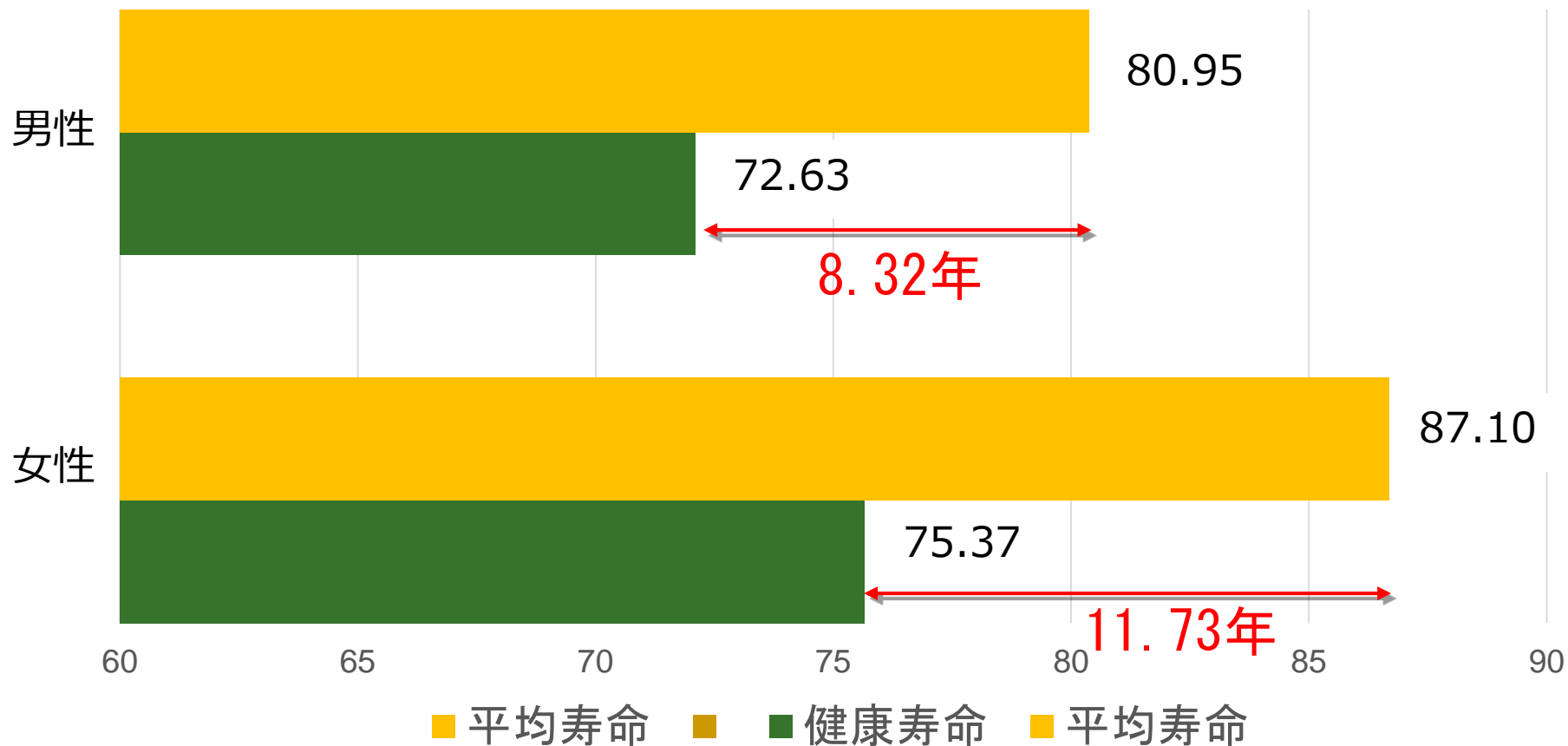
低い方から
全国
2位

富国有徳の理想郷 - しずおか
ふじのくに



静岡県健康寿命と平均寿命

(健康寿命：平成28年、平均寿命：平成27年)



静岡県健康長寿プロジェクトの概要 (H24~)

健康寿命の延伸

【ふじのくに型人生区分の提示】
高齢者も元気で活躍できる社会

健康
マイレージ事業

企業表彰
制度

県民

市町

無関心層

企業・事業所

重症化予防

ふじ33プログラム

健康データ分析（見える化）

健診データ・コホート調査

協力大学
・ 東京大学
・ 浜松医科大学
・ 筑波大学
・ 県立大学 等

成果の提供

ツールの提供

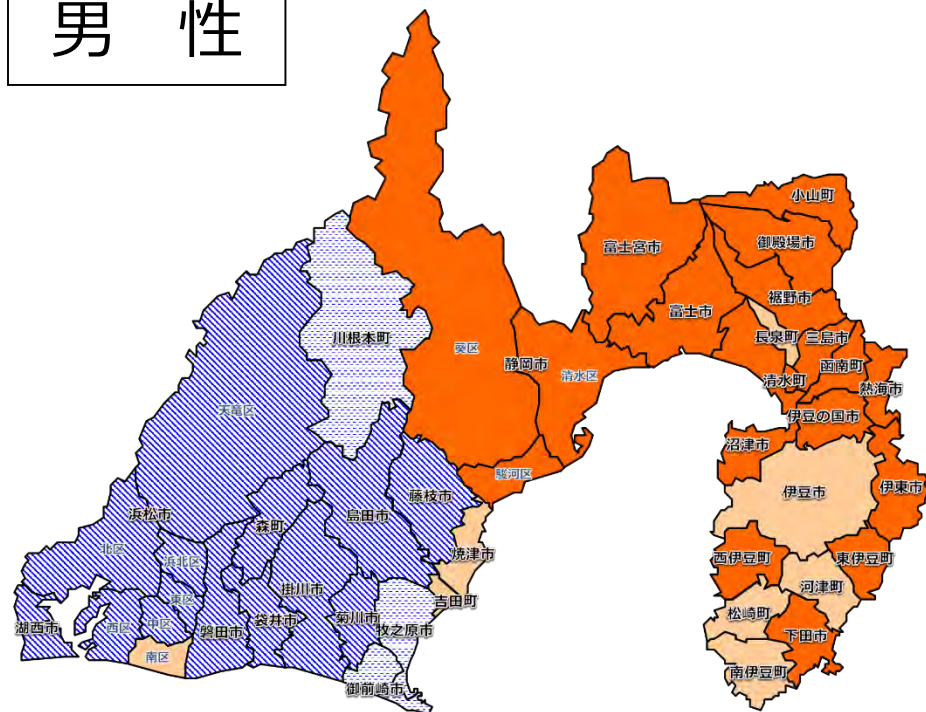
ツールの提供

成果の提供

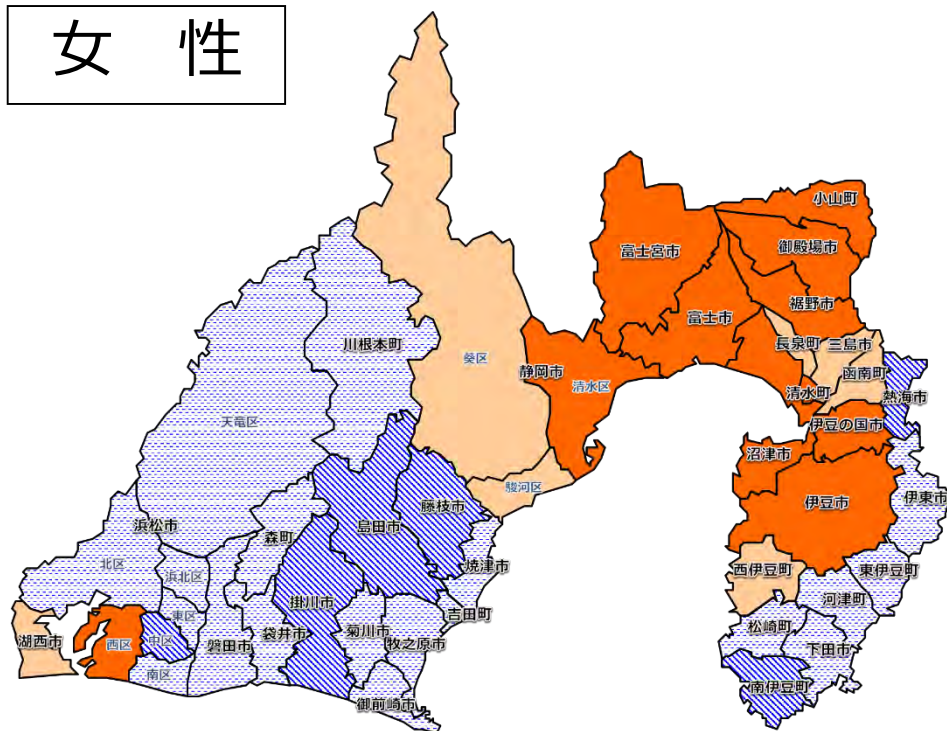
H28特定健診：メタボリックシンドローム該当者



県東部と静岡市でメタボリックシンドローム 該当者が多い



男性



女性



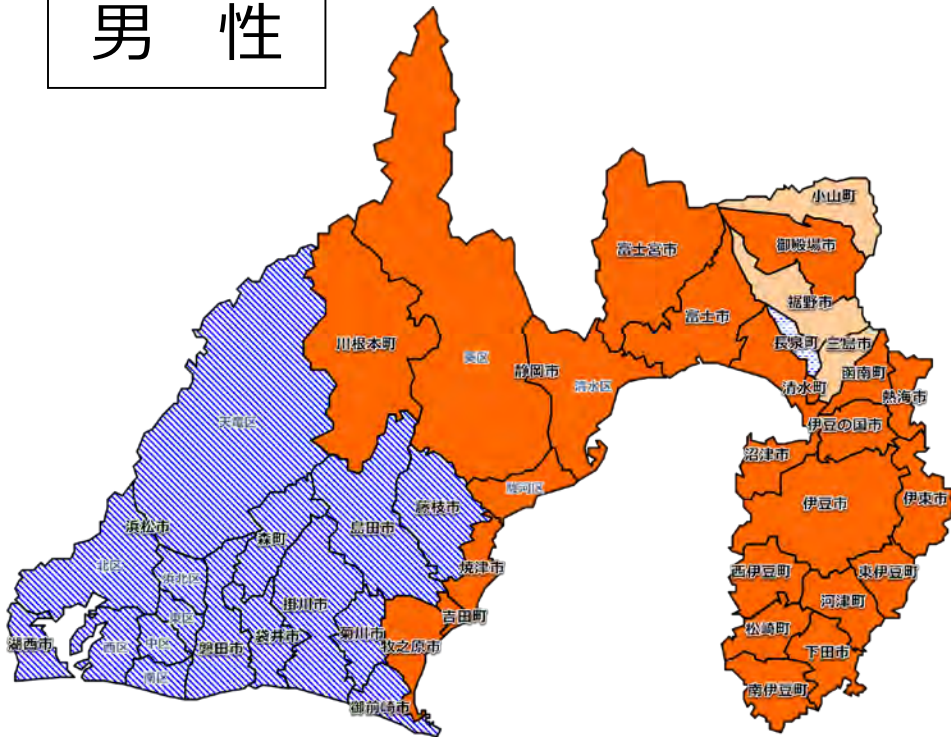
 有意ではないが、県全体に比べて少ない
 県全体に比べて、有意に少ない

 県全体に比べて、有意に多い
 有意ではないが、県全体に比べて多い

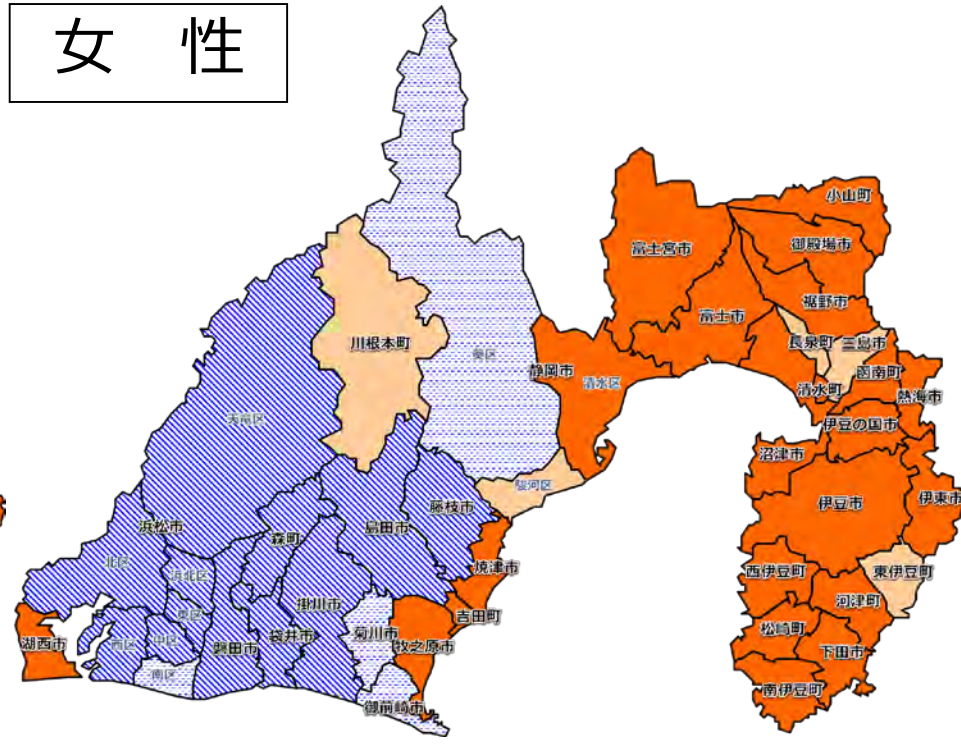
H27特定健診：高血圧症有病者



県東部と県中部で高血圧症有病者が多い



男性



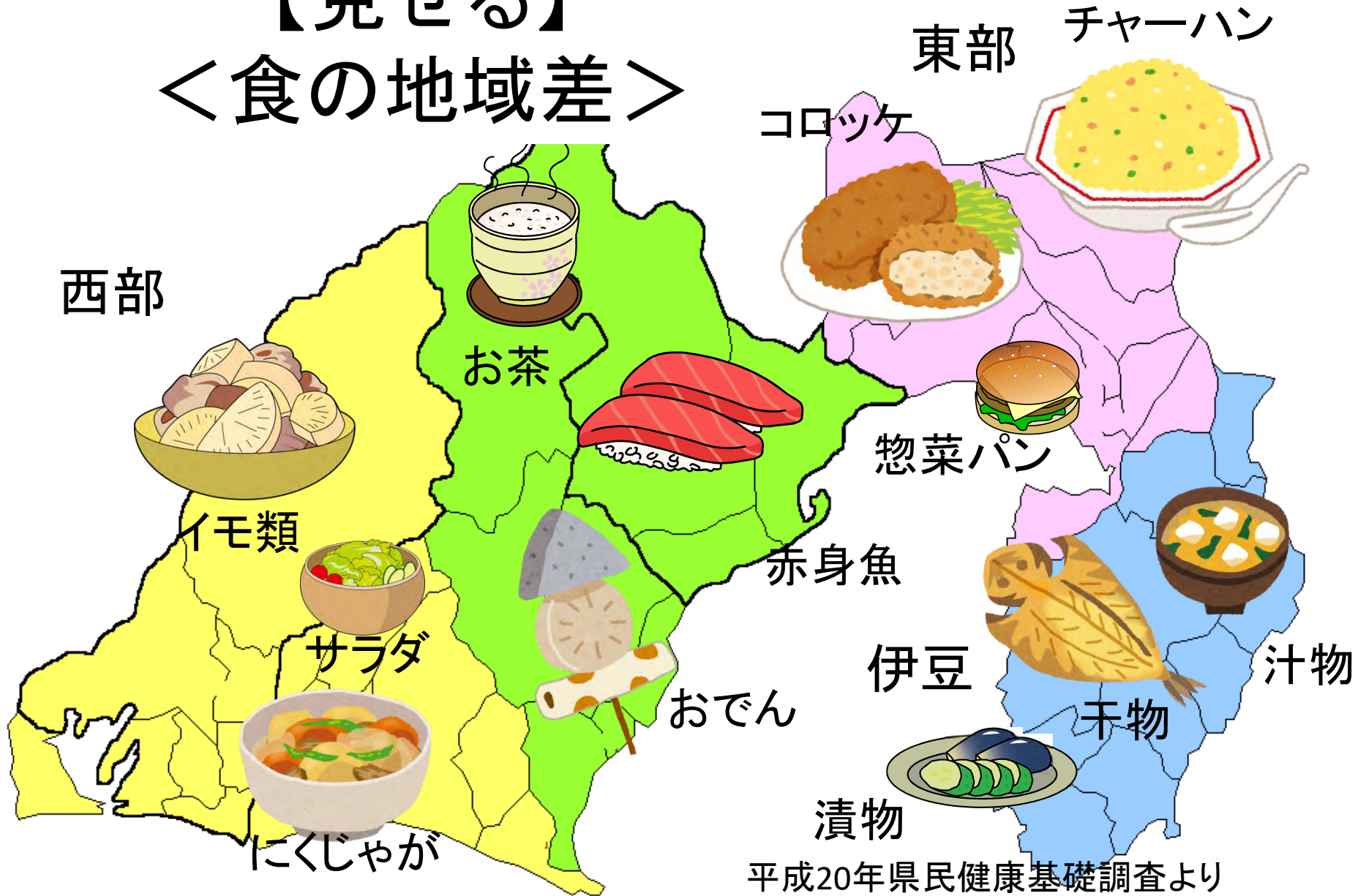
女性



 有意ではないが、県全体に比べて少ない
 県全体に比べて、有意に少ない

 県全体に比べて、有意に多い
 有意ではないが、県全体に比べて多い

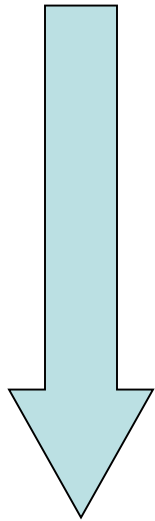
【見せる】 ＜食の地域差＞



平成20年県民健康基礎調査より

健康長寿県が抱えている課題と対応

- 【課題】**
- 平均寿命と健康寿命の差
 - 2025年問題
 - 医療費、介護給付費の増大



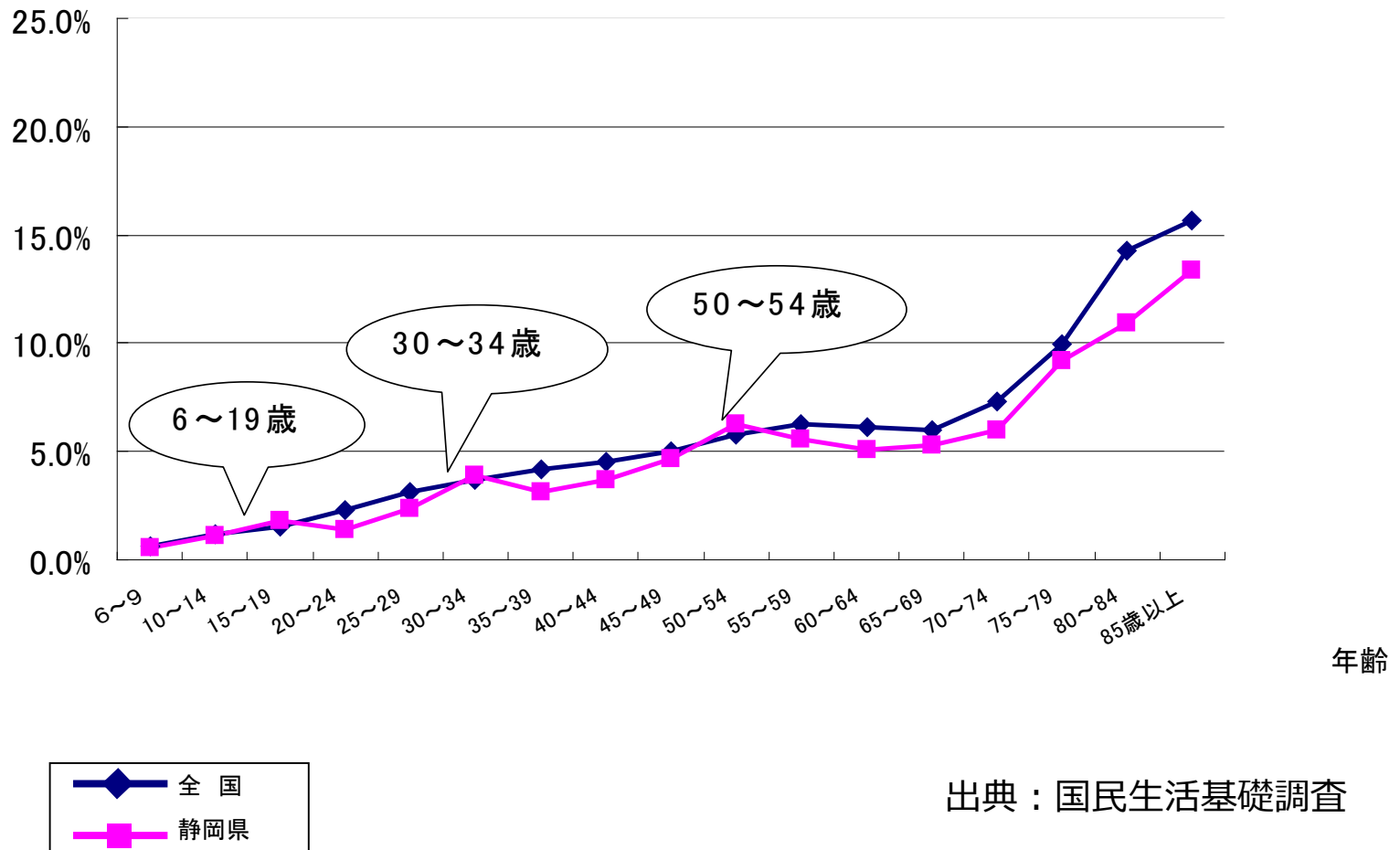
【対応の基本的な考え方】

- 1 1人1人が健康課題に関心を持つ
- 2 地域が一体となって、取組む
(健康づくりは地域づくり)
- 3 健康についての継続的な研究を行い
成果を出す仕組み

県民全てが健康で活躍すること！

健康経営を推進する背景①

健康上の理由で仕事や家事に影響ありの割合（平成25年）



出典：国民生活基礎調査

健康寿命のさらなる延伸を目指して

「しずおかまるごと健康経営」プロジェクトの推進

県民の健康寿命の更なる延伸を経営的な視点から考え、戦略的に健康づくりを実践する。

コンセプト

静岡県で “暮らす” “働く”

“育つ” と元気になれる

～ 働いてよし、住んでよし～



「しずおかまるごと健康経営」プロジェクト

地域における健康経営の強化 ⇒

無関心層への働きかけ



- ・地域住民等へ健康に関する情報を伝える「健幸アンバサダー」を養成

企業における健康経営の強化 ⇒

働き盛り世代の生活習慣病予防

- ・企業とのネットワーク会議を設立
- ・企業の健康づくりを応援するための情報発信
- ・優良事業所の表彰、好取組の情報発信
- ・健康づくり推進事業所宣言事業所の取組支援
- ・社内食堂等におけるヘルシーメニューの提供支援



家庭における健康経営の促進 ⇒

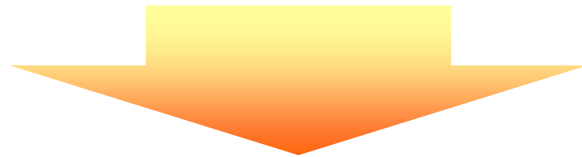
よい生活習慣を身につける
+
こどもから大人への働きかけ

- ・こども版ふじ33プログラムの作成
- ・こどもの頃からの3要素「運動」「食生活」「社会参加」の普及
- ・アプリによる生活習慣の学習、将来像の見える化
- ・こどもだけでなく家族と一緒に実践



新たな「人生区分」提示の目的

- 健康寿命相当年まで“老年”の考え方を引上げ



- 超高齢社会に対する前向きなイメージの醸成
- 価値や文化、技術の継承など世代間をつなぐ役割を担う世代の意識付け
- 健康長寿の3要素の1つである“社会参加”の増加により、健康寿命のさらなる延伸を図る

ふじのくに型人生区分

- 新たな年齢区分の考え方を県から発信

呼 称		年齢区分	説 明
老年	百寿者	100歳以上	白寿後（100歳）以上
	長 老	88 - 99歳	米寿（88歳）白寿（99歳）まで
	中 老	81 - 87歳	傘寿後から米寿前まで
	初 老	77 - 80歳	喜寿（77歳）から傘寿（80歳）まで
壮年	壮年熟期	66 - 76歳	経験を積み、様々なことに熟達し、 社会で元気に活躍する世代(働き盛り世代)。 (健康寿命 男性71.68歳、女性75.32歳)
	壮年盛期	56 - 65歳	
	壮年初期	46 - 55歳	
青 年		18 - 45歳	社会的・生活的に成長・発展過程であり、 活力みなぎる世代。 (農水省事業や地区商工会議所で45歳まで青年扱い)
少 年		6 - 17歳	小学校就学から選挙権を有するまでの世代。
幼 年		0 - 5歳	命を授かり、人として発達・発育する世代。

ふじのくに型人生区分への反応

後期高齢者と言われるのとは違った気持ちです。健康に気をつけて社会参加したいと思います。75歳女性

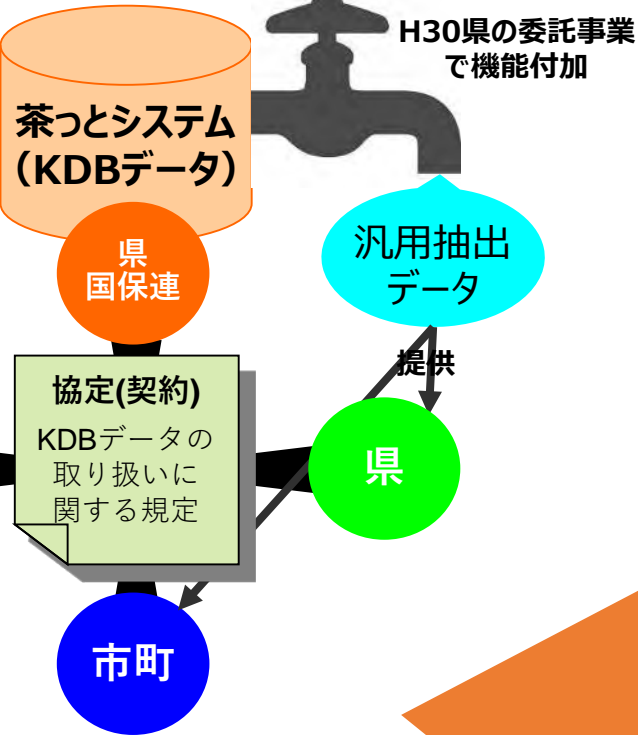


「人生区分」では壮年熟期。まだまだ健康でいたいと思っています。73歳男性

私もまだ老年じゃなく壮年ですね。71歳女性

私は壮年初期。仕事が大変と思うこの頃ですが、まだ出来ると前向きに考えられる。48歳女性

何だまだ壮年なのか、働き盛りなのかと改めて生きがいを感じた。健康を保ちながら自信をもって生きていこう。73歳男性



ステップ2 (分析・施策反映)

- 連携調整会議の開催(既存会議を想定)
 - ① 市町・広域連合・県からデータ分析の要望・提案を提出
 - ② ①の提案から実施するものについて協議・採択
 - ③ 採択されたものについて県がデータを分析し、市町・広域連合にフィードバック(委託想定2~300万程度)
- 市町・広域連合・県における施策反映
 - ① 分析結果を施策・事業に活用
 - ② 保険者機能強化推進交付金への活用(市町・県のみ)

ステップ1 (事前準備)

- データの取り扱いに関する4者協定の締結
 - ・個人情報の取り扱い
 - ・匿名データの提供 等
- 医療・介護連結データのプログラム開発
 - ・茶っとシステムの改修に合わせて抽出機能の付加(県から委託)

